

霧島山

概 況

新燃岳、御鉢ともに火山性地震は少なく、火山性微動はありませんでした。噴煙は見られず、火山活動に大きな変化はありませんでした。

噴煙活動の状況

噴煙は見られず、表面現象に大きな変化はありませんでした。

地震・微動活動の状況

新燃岳では火山性地震は少ない状態で推移しました。気象台震動観測点 A 点（新燃岳火口の南西 1.7km）で観測した地震回数は 22 回（7 月：71 回）でした（図 1）。

また、御鉢でも火山性地震は少なく、東京大学高千穂西観測点（御鉢火口の西 1.1km）で観測した地震は 4 回（7 月：9 回）でした（図 2）。

火山性微動は新燃岳、御鉢ともにありませんでした（図 3）。

火口や噴気活動の状況

26～29 日の現地観測では全磁力¹と GPS の観測を行ないました。期間中、山頂は雲に覆われ、地温測定はできませんでした。新燃岳火口内の噴気活動は平常と変わらず、火口縁からの遠望観測では観測点 S6 の噴気の高さは約 20m でした（図 4、図 5）。御鉢火口内は雲のため噴気の状態等を観測できませんでした。

地殻変動活動の状況

GPS による地殻変動観測では、御池 - 高千穂、通常御池 - 高原、高千穂 - 高原の各観測点間の基線長に火山活動に起因する変化はありませんでした（図 6）。

全磁力観測¹：通常、火山体は地球の磁場の方向と同じ向きに磁化されているが、火山活動に起因する火山体内の温度上昇により磁力を失う（熱消磁）ようになる。この変化を地表で観測することで、山体内部の温度変化を知る手がかりになる。

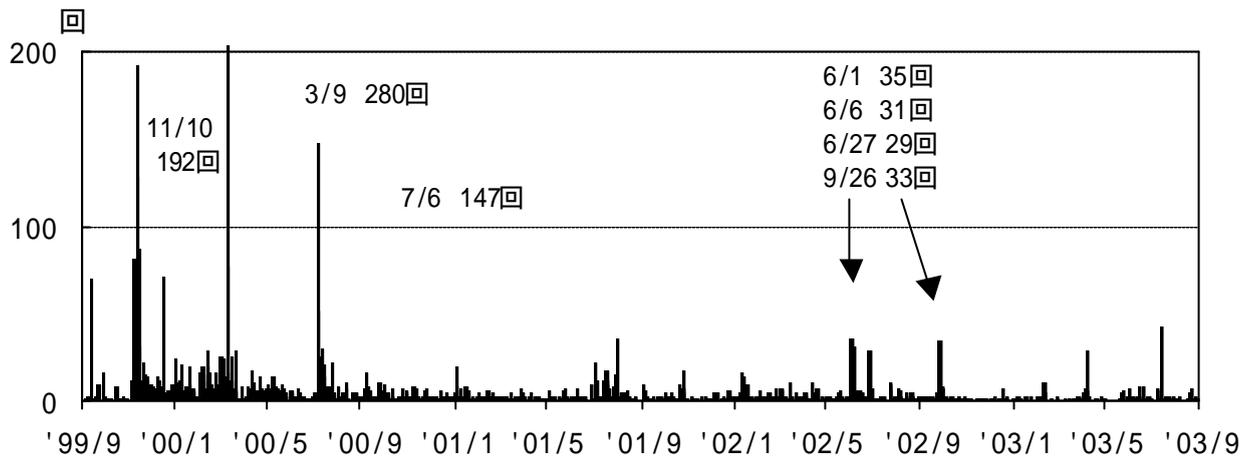


図1 気象台震動観測点A点の日別地震回数(1999年9月~2003年8月)

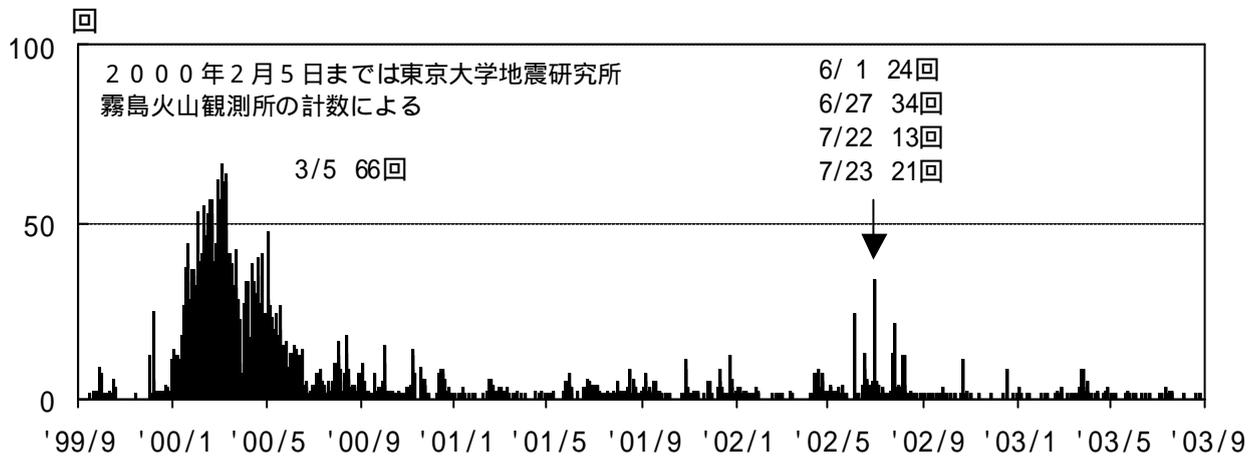


図2 御鉢付近を震源とする地震の日別回数(1999年9月~2003年8月)

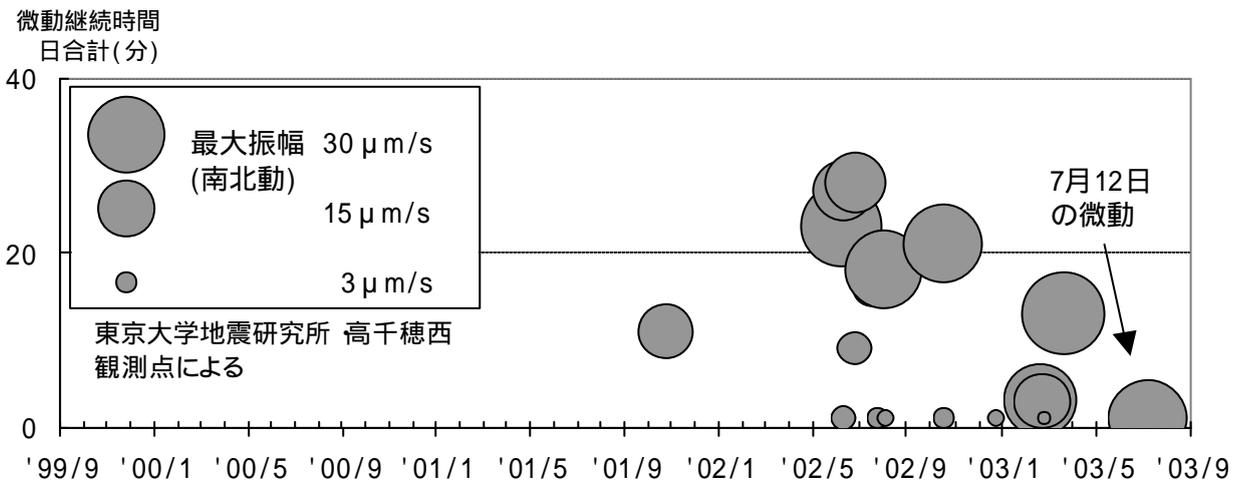
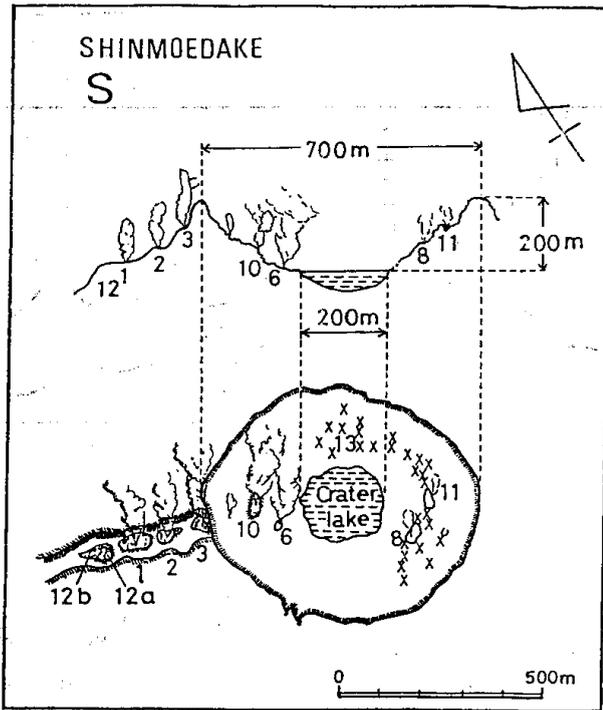


図3 御鉢付近での火山性微動の発生状況(1999年9月~2003年8月)

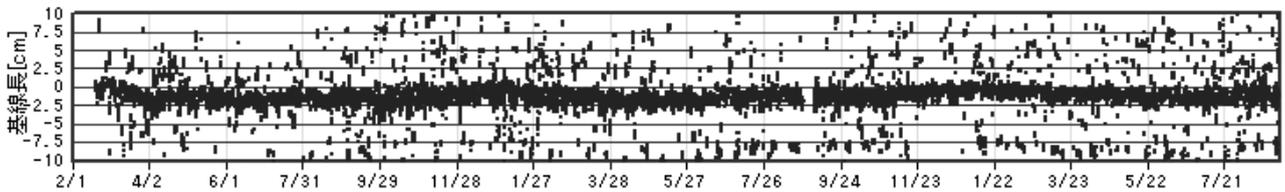


新燃岳における主な噴気孔の位置

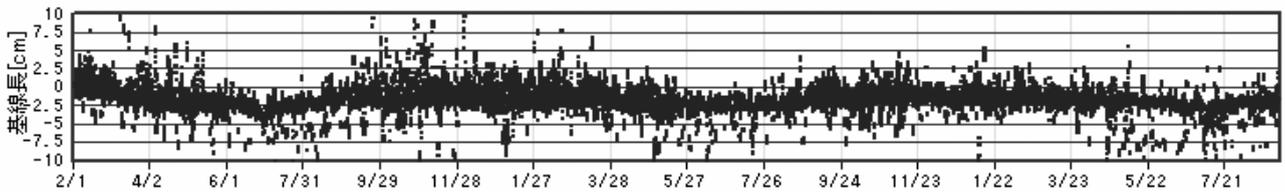


図 4 新燃岳火口の噴気孔 (6 : 観測点 S6)

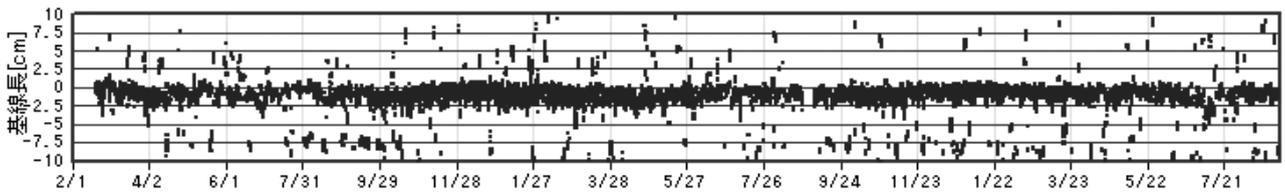
図 5 新燃岳火口の観測点 S6 (中央)
S10 (右上) の噴気 (8 / 27)



御池 - 高千穂の基線長変化(2001 年 2 月 18 日 ~ 2003 年 8 月 31 日)



御池 - 高原の基線長変化(2001 年 2 月 2 日 ~ 2003 年 8 月 31 日)



高千穂 - 高原の基線長変化(2001 年 2 月 18 日 ~ 2003 年 8 月 31 日)

図 6 GPS による基線長変化

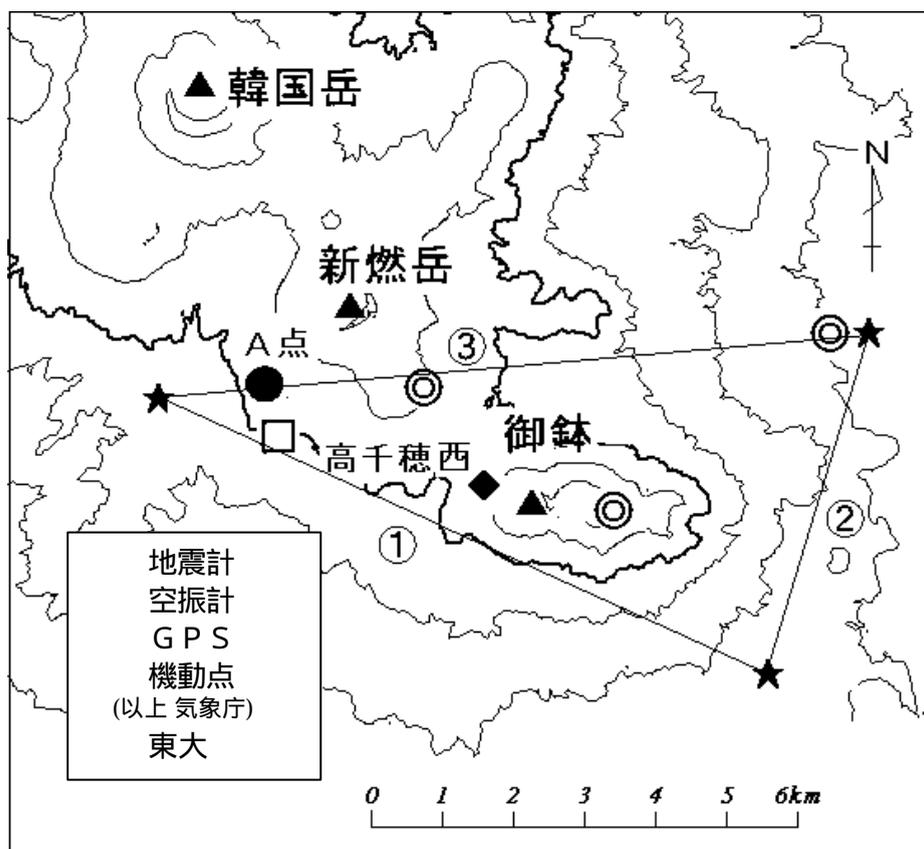


图7 火山観測点位置図